

群 教 セ	E03 - 03
	平 14.206 集

力を合わせ努力できる学級づくり

- 学級コメント集「燃えてる4組青春綴り」を活用して -

特別研修員 宮崎 孝宏

《研究の概要》

本研究は、中学校1年生を対象に、生徒のコメント集を学級活動や道徳の時間の振り返りの資料に活用することで「力を合わせ努力できる学級づくり」に迫れることを実践を通して明らかにしようとしたものである。具体的には、学校行事の中でも特に学級全員でとことん練習を重ねて取り組む行事を重視し、その経験の前後での生徒コメントを効果的に取り上げ活用していくことで、力を合わせて努力していこうとする価値の日常化を図るものである。

【キーワード：学級経営 中学校 学級活動 道徳 体育大会 合唱会】

主題設定の理由

現在、気の合う仲間と表面上の交流をもつことで日々を過ごす若者が多く見られがちである。だからこそ、さまざまな個性をもった生徒によって構成される学級集団において、力を合わせ自分たちが向上できたという経験は、その後の生き方に大切な意味をもってくると考えられる。

本学級の生徒は中学1年生（男子18名、女子16名）であり、3つの小学校の出身者により構成されている。4月の頃は、小学校時の友とは別の学級になり、見知らぬ生徒の多い新しい学級への不安の声が聞かれていた。そこで、級友の良さを見ていくことや、班で協力して清掃や給食準備を進めることの大切さを日々語り、級友の声を学級通信で紹介するなど相互理解の一助となるよう支援に取り組んだ。その中で、少しずつ協力する場面が見られるようになってきたが、小集団が偏っていたり、苦手意識のある物事に対しては努力せずにあきらめてしまう実態も見られた。これらは、個性の違う仲間を認め、一人ではできない物事に向かって集団で力を合わせるという経験が不足していることが要因と考えられる。高原学校後の生徒コメントに「雨のために榛名湖を一周することになった。濡れるし嫌だと思ったけどみんなで歩いたら楽しかった」「体格の小さなうちのクラスが室内レクの綱引きで、まさか優勝するとは思わなかった」等の内容があった。このようなコメントからも、行事体験を大切に生かし資質を高め育てていくことが有効と考える。具体的には、学級として力を合わせ、目標に向かって練習を重ねる中で、個々のがんばりが集団の成果につながり、個も集団も向上していくすばらしさを実感できる体験を通し「苦手だと思ったがみんなで努力したらできるようになった」「嫌だと思ったがみんなでがんばったら楽しかった」という思いを持たせたい。そのためにも、一時的ながんばりだけで解決できる活動ではなく、全員長縄や合唱会など、集団目標に向かい長期間に渡る練習の過程を経る活動こそ、力を合わせて努力することの価値を実感できると考える。また、本校の教育目標である「粘り強く頑張る生徒」の姿にも迫るものと考えている。

そこで、本研究では、生徒のコメントを活用して振り返り話し合う活動を通し、力を合わせ努力できる学級づくりを目指していく。特に、体育大会の全員長縄と順位をつかない合唱会において学級独自の目標に向かって努力する経験を積み、目標とする質の変化から価値の日常化を図りたいと考える。そのために、行事体験を積み重ねる生徒の気持ちをコメント集に綴っていき、仲間の気持ちを理解したり、自己や集団の価値変容に気づく財産として活用することによって力を合わせ努力できる学級づくりに迫れると考え本主題を設定した。

研究のねらい

学級全員で努力して取り組む学校行事において、事前・事中・事後に書いた生徒コメントを朝の会や帰りの会で紹介し合う活動、道徳の時間でコメントを構造化して考える活動、学級活動でコメントを中心に振り返り、学校生活への取組を話し合う活動を連続して行うことを通して、力を合わせ努力できる学級づくりに迫れることを、実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 体育大会に向けた練習期間中の朝の会・帰りの会において、特に全員種目の長縄に対する集団として練習を重ねて向上していく過程の気持ちを綴っていき、級友のコメントも紹介し合う活動により、協力して頑張ることのすばらしさに気づくことができるであろう。
- 2 道徳「順位のつかない合唱会」において、順位を目標として掲げられない本校の合唱会という行事に向けて、体育大会後の生徒コメントを中心資料として学級としての取組の問題点を構造化して話し合うことにより、学級の一員として力を合わせ頑張ろうとする意欲を持つことができるであろう。
- 3 学級活動「燃えてる4組青春まっしぐら」において、綴ってきたコメント集を活用し学級としての行事に対する取組を振り返りながら、日々の学習や班活動といった現在の学級の問題点を話し合うことにより、特別な行事はなくとも日常の学校生活の中で目標を掲げ、力を合わせ努力していこうという意欲を高めることができるであろう。

研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 「力を合わせ努力できる学級づくり」について

力を合わせ努力できる学級とは、目標に向かいみんなで燃えることによって「みんながいて良かった」「みんなで努力したからこんな思いが得られた」など充実感が得られるという経験を積み重ねる中で、与えられた行事等に対してだけでなく、日常の学校生活においても、力を合わせ努力をしていこうとする意欲をもった生徒で構成される学級であると捉える。このような意欲をもった学級集団を育てていくためには「得意ではない」「簡単ではない」という物事をみんなで乗り越える体験を通して実感を得る経験が重要であると考えるとともに、個々の思いの変化を共有して振り返りながら進むことが必要であると考え。また、学級対抗行事などのように見えやすい目標に向かうときだけではなく、力を合わせ努力

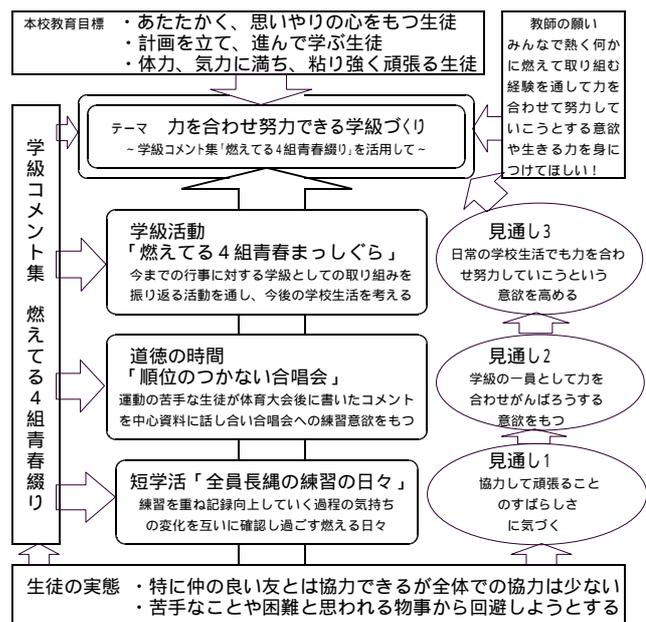


図1 研究の全体構想図

する価値の日常化が図られなければならない。そこで、本研究においては、次のと高まっていく姿を「力を合わせ努力できる学級」の生徒の姿として捉えた。

順位が明らかになる行事に向かって、協力して頑張ることのすばらしさに気づくことのできる生徒

客観的順位はつかなくとも、自分たちで目標を掲げ、得意ではない物事に対しても学級の一員として、力を合わせて頑張ろうとする意欲をもった生徒

特別な行事だけではなく、日常の学校生活においても自分たちの目標を掲げ、力を合わせ努力していこうという意欲の高まった生徒

こうして高まった意欲が次の教育活動の活力となり、日常生活の中における物事に対しても、力を合わせ努力していこうとする望ましい学級集団に育っていくと考える。

(2) 「燃えてる4組青春綴り」について

学級として関わる行事や物事があるごとに、その事前や事後などに生徒が書いたコメントを綴ったものを「燃えてる4組青春綴り」として年間を通して続けていく。みんなで力を合わせ目標に向かって真剣に努力を重ねている状態を「燃えている」と表現し、成功したり失敗したり、仲たがいをしてしまったたり励まし合ったりしながら成長していく時期を「青春」と捉える。学級の一員として考えていること、感じたこと、頑張ったこと、頑張れなかったこと、思いや理由などをふくめ生徒の声をこまめに綴っていきたい。そして、学級通信に掲載して紹介したり、学級全体の声を印刷して資料として話し合ったりすることにより、自分自身と学級全体の成長の財産にしていきたいと考える。学級活動における振り返り資料や、道徳の時間の資料として活用していくことも大いに意図している。本研究においては、学級として長期間とことん練習して取り組む体育大会の全員長縄と、合唱会前後においてのコメント活用が中心となる。また、この生徒のコメントが研究実践による成果の検証においても有効であると考えている。

2 実践の概要および結果と考察

検証にあたっては、「燃えてる4組青春綴り」のコメントの内容の変化、生徒の活動の様子、ならびに、抽出生徒の感想文を中心に行っていく。

抽出生徒A子は、4月の入学当初に「不安でいっぱいだけど、新しい仲間とまとまりのあるよいクラスをつくっていきたい」とコメントに書いていた生徒である。また、運動は得意ではないと答えており文化部に所属している。

(1) 協力して頑張ることのすばらしさに気づくことができたか。(見通し1)

ア 実践の概要

体育大会に向けて、特に全員長縄やムカデリレーの練習を重ねる中で、続く失敗や伸び悩む記録の克服に向けて学級としての努力を重ねる日々を約三週間続けた。その中で朝の会や帰りの会の時間を利用し、個々が綴ったコメント内容を紹介し合う活動を通し、練習を重ねることによって、記録が向上していく過程の気持ちの変化を共有し合う場とした。

イ 結果と考察

資料1は、全員長縄の初めての練習を終えた直後に書いた生徒コメントの主な内容である。練習初日の記録が、全クラス中で極端に最下位であったため、努力する意欲さえ湧いてきていない者が多かったことが分かる。しかし、練習を重ね、記録が徐々に伸び、初めて10回を越せた日には「だめだ・つまらない」等のあきらめムードを書いた生徒は誰一人いなくなっていた。

資料1 長縄練習初日の主なコメント

あきらめ	・3回しか跳べなかった、がっかり	9人	59%
	・他のクラスはみな10回以上跳べたのに自分たちは3回しか跳べずもうだめだと思う	8人	
	・つまらない おもしろくない	3人	
前向き	・これから練習がたくさん必要だ	7人	41%
	・練習して、たくさん跳べるようになりたい	7人	

資料2は、思いを紹介し合いながら練習して記録が伸びていく過程のコメント内容の変化を示したものである。頑張りたいという声が増加し、練習を続ける中で記録更新の楽しさを感じられるまでになってきている。本番で学年1位になりたいという具体的な強い目標を抱き、そのために練習したいという気持ちに集団として変化してきていることが分かる。大会本番の二日前、ついに上級生の記録をも越し、全校最高記録の49回を跳ぶに至った。ここでは、「50回を越したい」というように学級順位から自分たちの記録を意識するなど思いや願いが変化してきていることも分かる。資料3は、その日にA子が書いたコメントである。みんなの頑張りが成果として出てきた過程を振り返りながら嬉しさを語り、学級のみんなと力を合わせて大会本番に臨もうとする気持ちを見取することができる。

資料2 長縄の練習過程における変化

3回しか跳べなかった初日	20人 14人	もうだめだ・つまらない 練習が必要・がんばりたい
初めて、10回越えられた日	24人 21人	もっと練習したい 長縄練習は楽しい
学年1位クラスと並んだ日 (21回という記録)	31人 28人 27人	もっと練習したい 記録更新は楽しい がんばって優勝したい
全校の最高記録を出した日 (49回・大会本番二日前)	34人 26人 30人 24人	本番で優勝したい 疲れたが嬉しかった みんなで頑張りたい 頑張って50回を越えたい

資料3 最高記録が出た日のA子コメント

最初の日にはたった3回しか跳べなくて、他のクラスは10回以上跳べていて、もうダメだと思いました。どうなることかとみんなも思っていました。でも練習を重ねるごとに回数を多く跳べるようになって、最後には3年生の記録もこえて全校最高記録49回も跳べるようになってびっくりしました。クラスのみんなががんばったからだと思います。私も足が痛かったけどとってもうれしいです。みんなで力を合わせて、大会本番は50回以上跳んで優勝したいと思います。

これらのことから、全員長縄の練習を重ねる過程の、気持ちの変化を共有しながら取り組むことにより、協力して頑張ることのすばらしさに気づくことができたといえる。

(2) 学級の一員として力を合わせ頑張ろうとする意欲が持てたか(見通し2)

ア 実践の概要

体育大会における結果が出た直後から準備が始まるのが合唱会である。本校の合唱会は順位をつかない発表会となっている。合唱の本番10日前に、合唱練習に学級の一員として取り組む気持ちに迫るため道徳の時間を設定した。資料4は、道徳の中心資料に活用した資料である。これは、運動が大の苦手であるけれど、学級の一員として体育大会においてがんばっていた生徒のコメントである。振り返りの補足資料として青春綴りも活用した。

資料4 道徳の資料とした生徒コメント

「苦手だけれどがんばった体育大会」
 苦手だけれど運動が苦手です。学校のときも運動が苦手な子が多いです。でも、練習を重ねると、みんなががんばると、自分もがんばりたいと思えるようになります。最初は、足が痛くて、もうダメだと思いました。でも、練習を重ねると、みんなががんばると、自分もがんばりたいと思えるようになります。最初は、足が痛くて、もうダメだと思いました。でも、練習を重ねると、みんなががんばると、自分もがんばりたいと思えるようになります。

イ 結果と考察

図2は、この道徳の時間における話し合いの様子を板書で構造化したものである。まず、合唱練習における現在の学級の問題点を出し合うことから始めた。ここでは「低くて声が出ない」「難しくて音程がわからない」「合唱がおもしろく感じない」などの声が出てきた。その上で、資料4の生徒のコメント資料を配布し、体育大会での全員長縄やムカデリレーで1位をとることができた勝因を話し合った。この話し合いの中では、図2に示されているように、負の要因の多い状態から学級のみんな

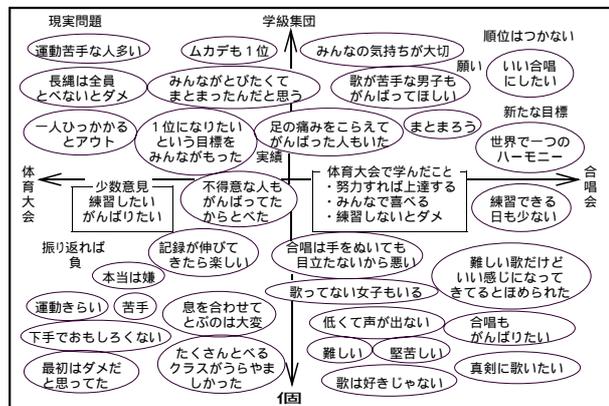


図2 道徳での話し合い結果の構造図

が取り組み始めていたことから振り返ることができた。「最初は記録が伸びずにおもしろくなかったが、練習によって楽しくなった」(21人)「記録が伸びたのはみんなが1位になりたいと強く思って練習したから」(24人)「運動が不得意なのに、クラスのためにがんばった仲間がいたから」(34人)と体育大会の長縄を中心に振り返る中で学級としての勝因が確認できた。また、「長縄のように一人の失敗が目立たないかもしれないけれど、みんなががんばらないといい合唱にはならないと思う」と発言した女子生徒も出てきた。学級の一員として合唱練習に対する取組を話し合う中では、「全員長縄もムカデリレーも、1位になりたいとみんな強く思っていたから真剣に練習できた」という男子生徒の発言もあり、合唱会に向けた「全員真剣合唱」という新たな学級の目標も掲げられた。

資料5は、本授業後に書かれたコメントの主な内容である。A子は「注意をし合って、パートの音程が正確になるように練習していきたい」と書いていた。それまで、真剣に練習に取り組んでいないことも多かった男子生徒3人も「出せるところは大きな声で歌いたい」や「みんなのためにもちゃんとした姿勢で歌いたい」と書いており、得意ではないとしても自分にできる面からしっかり取り組むことで、集団の一員としての力を発揮し始めようとしている気持ちの変化が見られた。また、音程取りの得意な生徒やキーボードが弾ける生徒が中心となり、朝や休み時間などにパート練習を始める姿も見られるようになった。

資料5 道徳後の主なコメント内容

・大きな声で精一杯歌いたい	21人
・もっと練習して、みんなでいい合唱にしたい	16人
・合唱でもみんなの力を合わせていきたい	15人
・パート音程をお互い注意し合って練習したい	9人
・体育大会のように成果が出せるよう努力したい	8人
・休み時間にパート練習をして正確にしたい	7人
・出せる音だけでも大きな声で歌いたい	6人
・ちゃんとした姿勢で歌いたい	1人

これらのことから、道徳の時間で体育大会を経験した後の生徒作文を中心資料として合唱会に向けた取組を話し合うことで、学級集団の一員として力を合わせ頑張ろうとする意欲が持てたといえる。

(3) 力を合わせ努力していこうとする意欲が高まったか(見通し3)

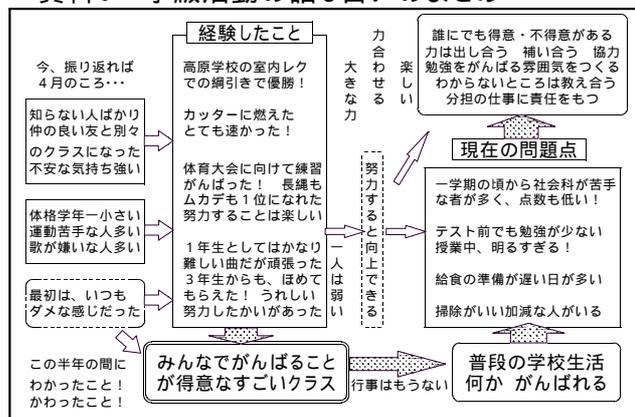
ア 実践の概要

本校の合唱会では順位をつけていないものの他学年と感想文を交換し合う活動をしている。本学級に対しては、3年生のあるクラスから感想が寄せられた。その中には「難しい曲なのに1年生とは思えないくらい素晴らしいハーモニーとなっていて感動しました。たくさん練習した成果が出たのではないのでしょうか。きれいな歌声をありがとう!」という内容もあり、生徒たちも感激していた。合唱会後のコメントに「練習した成果が伝わっていたのかと思うとうれしかった。みんなで練習したかいがあった」と多くの生徒が書いていた。本校では、合唱会をもって大きな行事が終了する。そこで、今までの学級としての取組を、コメントをもとに振り返り、特別な学校行事の予定されていない今後の学校生活に対し、学級としてどのように取り組んでいったらよいか話し合っまとめた。具体的には、自分たちの学級として問題点を話し合い、克服に向かうためにできることを話し合う場とした。

イ 結果と考察

資料6は、この学級活動で話し合われた内容をまとめたものである。今までの行事への取組を振り返る場面では、春先に自分たちが書いた「知らない人ばかりのクラスでこの先どうなるか心配」という自分

資料6 学級活動の話し合いのまとめ



の書いたコメントを読み笑ってしまうなど、連続する自己の成長に立ち止まって振り返る姿も見られた。今までの行事への取組を振り返り話し合った結果から「最初は困難に思えた物事も練習によって向上できる」「自分たちのクラスは一人一人の力は弱いけれど、みんなで力を合わせることで大きな力となること」「みんなで努力すると、大騒ぎして喜べるし楽しい」等の自分たちの体験から得られたことについての意見も多く出てきた。

資料7 学級活動後のA子のコメント

入学式の日に見渡すと知らない子ばかりで、この先どうなるんだろと心配していたことを思い出しました。高原学校のころにはもうすっかりみんなとも仲良くできていました。心配していたのが不思議です。今までの行事で一番の思い出が体育大会の長縄です。最初の日はずいぶん跳べなくてだめかと思ったのに49回も跳べたなんて今でも信じられないくらいです。練習するとできるようになるものだなと思いました。総合優勝はできなかったけどいい思い出です。校庭で三三七拍子をみんなでしたのが楽しかったです。合唱会では4組の「空駆ける天馬」は難しく最初はちゃんと歌えませんでした。でも毎日教室で練習しているうちに、みんなどんどん上手になりました。男子も大きな声で歌ってくれるようになってうれしかったです。4組はやっぱりまとまりがあっていいクラスだと思います。みんなで力を合わせるとすごいです。この経験を生かしてこれからも努力を忘れずがんばっていききたいと思います。もう少しで期末テストがあります。私は国語と社会が苦手です。得意な人に勉強の仕方を教えてもらいたいです。私は数学が得意とまでは言えないけど計算なら少しだけ自信があるので、わからない人は聞いてください。それから、委員会の仕事もがんばっていききたいと思います。

特別な行事のない今後の学校生活において今までの経験をどのように生かしていくかという話し合い場面では、定期テストに向け苦手な勉強を教え合う、掃除や給食を協力する、学級全体に苦手意識のある社会を何とかする、等が出てきた。資料7は、この学級活動後にA子が書いたコメントである。この中でA子は長縄を通して「練習すればできるようになるものだ」と語り「経験を生かして努力を忘れずにこれからも頑張りたい」と語っている。また、苦手な教科に対する協力を学級の仲間にも求め、自分の「少しでも自信のある計算」については力になりたいという姿勢も見せており、行事以外においても学級のみならず協力して頑張っていこうとする気持ちが高まってきていることが分かる。

これらのことから、過去に綴ってきたコメント集を活用し、今までの行事に対する取組の成果を基に今後の学校生活を話し合うことで、日常の学校生活においても、力を合わせ努力しようという意欲が高まったといえる。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

体育大会の全員種目である長縄において、コメントを活用して練習過程の気持ちの変化を共有しながら進むことによって、記録向上に喜び、目標の質を上げながら練習に励む集団へと変化し、協力して頑張ることのすばらしさに気づくことができた。

道徳「順位のつかない合唱会」では、運動苦手な生徒の体育大会後のコメントを中心資料として話し合い構造化することによって、合唱会に対して、苦手でもできるところから取り組もうとする姿が見られるように変化し、学級集団の一員として力を合わせて頑張ろうとする意欲を持つことができた。

学級活動「燃えてる4組青春まっしぐら」では、それまで綴ってきたコメント集を活用し学級集団としての行事に対する取組の成果や成長の足跡を振り返りながら、今後の学校生活に対する取組を話し合うことにより、特別な行事はなくとも日々の学習や班活動においても力を合わせて努力していこうという意欲の高まった生徒の多い学級になった。

2 今後の課題

日々の学校生活における出来事を通しての思いをコメントに綴る活動を継続し、個々の生徒や学級集団としての成長を確認し合いながら歩いていくための振り返りの財産として、今後も教育活動に有効的に生かしていくことが大切である。

